修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幡ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

近畿地区あおぞら号

運営協議会総会ひらく

21年間に二百万人を安全輸送

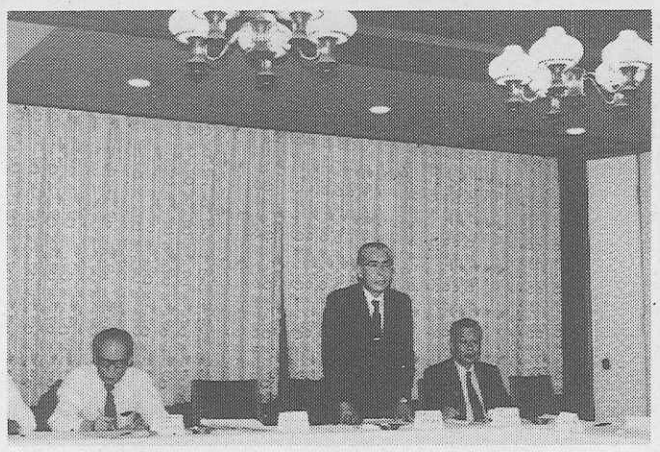
会長に酒井康晴氏を選出

本年度第一回近畿地区「あおぞら号」運営協議会の総会は、十月十二日大阪市天王寺区の「グリル近鉄」で開催、対馬会長ほか各役員をはじめ、全修協から山本種一理事長と瀬尾武敏大阪支部長が出席した。

「あおぞら号」は、近畿地区小学校児童の伊勢方面修学旅行専用電車として、全修協各府県小学校長会の強いバックアップで、近鉄に要望を重ね、昭和三十七年実現し、毎年約九万人の学童を安全輸送し、現在まで二百万人余りに達している。

運営協議会総会の議案として、①昭和五十六年度近畿学童共済会決算報告、②五十七年度役員改選、③五十九年度乗車申し込み、④その他の事項が提案され、慎重審議の結果、それぞれ決定された。

近畿学童共済会の決算報告並び監査報告が承認されたあと、役員改選に移り、会長に酒井康晴氏（大阪府小学校長会長）を選出したほか、各新役員がきまり、それぞれ就任のあいさつが行われた。



「あおぞら号」運営協議会総会で新会長に選出され、あいさつする酒井会長　（大阪市・グリル近鉄で）

酒井康晴氏

「昭和五十九年度あおぞら号利用申し込みについて」の原案の細部にわたり検討し、事業の共通理解の上にたって各府県の割当表を作成した。乗車申し込みは所定用紙に、学校ごとの希望日を記入し、十一月三十日までに当該府県の事務局へ送付することとなった。

利用する近鉄の電車は、①ビスタカー②第一臨時列車③第二臨時列車④定期列車（混乗優先乗車）の四本建て。住路は上本町発―八木発―伊勢市着、復路は鳥羽発―宇治山田発―八木着―上本町着で、四月から六月、九月から十一月までの休祝日を除く百十六日間が輸送期間となっている。運営協議会としては十二月中に五十九年度輸送計画表を作成し、一月中に乗車日を発表する予定である。

なお当日の総会で、前会長の対馬熊雄氏は、特別委員に推され、全修協山本種一理事長より記念品が贈呈された。本年度役員は次のとおり（敬称略）。

▼会長　酒井康晴（大阪市立集英小学校長）
▼特別委員　対馬熊雄（前大阪市立曽根崎小学校長）
▼常任委員
来山武（大阪市立堂島小学校長）、近藤一雄（神戸市立湊山小学校長）、芭原薫（天理市立二階堂小学校長）、瀬尾武敏（財全修協大阪支部長）、荻巣史恭（近鉄鉄道総局上本町営業局運輸部長）
▼会計委員
戸神繁一（堺市立錦小学校長）
▼委員
武田武雄（吹田市立千里第一小学校長）、中谷滋（大阪市立明治小学校長）、上山久太郎（大阪市立勝山小学校長）、石田進（東大阪市立縄手東小学校長）、杉本恒寿（北葛城郡新庄町立新庄小学校長）、丹波樽文（桜井市立桜井小学校長）、伊藤薫（近鉄鉄道総局業務局次長）、林弘（同営業局企画部課長）、稲次亮一（同上本町営業局運輸部営業課長）、平井基晴（同運輸部運行課長）
▼会計監査
中納正信（神戸市立御影小学校長）岡田清（奈良市立鶴舞小学校長）
▼事務局主幹
稲次亮一（近鉄上本町営業局運輸部次長）曽田震五（全修協大阪事務所長）。

教福研特別委員会ひらく

―58年度研旅募集拡充へ―

教職員福祉問題研究会（西尾能信会長・滋賀県教職員互助会常務理事）＝以下教福研＝の研修旅行特別委員会が十月二十六日、二十七日の両日、愛知県西浦温泉で開かれ、昭和五十八年度研修旅行の基本大綱に基づく企画・募集方策等の検討、活発な意見が展開された。

まず山本種一教福研顧問（全修協理事長）より、会員各位の教育福祉への貢献に敬意を表するとともに、各位の日頃の体験、研究を修学旅行の改善・向上による教育活動、教職員の研修・福祉のための研修旅行活動の発展に活かすべく協力いただきたいとの挨拶があった。

つづいて、鈴木春之助副会長（東京都教職員互助会）を議長に事務局より五十八年度研修旅行の基本方針、企画、募集目標数等の提案を行い各県の情況をふまえ検討に入った。

教職員のニーズが多様化している中、企画内容は一般の市販商品とちがう右に出るものはないものの、募集宣伝活動等のパイプの流れをいかにスムーズにするかに論点が集中し、PR徹底の方策としての各団体機関紙への有効活用、研修・福利厚生内容のPR、実施機関による印刷物配付の補完活動が討議された。また、財団法人としての全修協の教育活動と表裏一体の運動を進めるため、全員「全修協幹事」に就任することが、承認された。

出席者は次の通り（敬称略）
▽顧問　山本種一（全修協理事長）▽副会長　神代義秀（大阪府教職員互助組合）・同鈴木春三助（東京都教職員互助会）▽常任幹事　明貫猛（京都府教職員互助組合）・同白滝末紀（全修協）▽幹事　菅原孝代理大村義之（静岡県教職員互助組合）・同大野良兵代理友永紀彦（山口県教職員互助会）・幹事前田寛（全修協）・監事　橘巌代理岡崎真一（石川県学校生活協同組合）▽会員　福田恵治（三重県教職員互助会）・同星田利雄（和歌山県教育互助会）・同伊藤稔（鹿児島県教職員互助組合）・全修協理事成瀬幡治。

11月24・25日二地区代表者会議

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（南裕之会長・大阪府河内長野市立千代田中学校長）は、十一月二十四～二十五日、愛知県蒲郡市西浦町で、代表者会議を開催する。

本年度における各地区修学旅行委員会の活動状況の情報交換を行い、問題点の対処について協議し、修学旅行改善に役立てる。また三地区連合委員会として共通する修学旅行問題の研究や今後の運動の進め方について検討する。

19万5千4百名を輸送

59年度輸送計画きまる

関修委

【関東支局】関東地区公立中学校修学旅行委員会（山口善雄会長・川口市立元郷中学校長）は、十一月十一日～十二日、栃木県塩谷郡藤原町で、本年度第四回運営委員会を開催し、昭和五十九年度修学旅行輸送計画を作成した。

関西方面修学旅行は東海道新幹線を利用し、関東五県で七百十校、十八万三千八百十五名、東北方面修学旅行は東北新幹線を利用し、四十一校、一万二千五百七十四名、総合計七百五十一校、十九万五千三百八十九名を、関修委全体として輸送する計画となっている。

4～5%のアップ

58年度修学旅行費を答申

京阪神三市修旅委

京阪神三市修学旅行委員会（屋敷昭三会長・大阪市教育委員会指導部長）は十月二十三日、大阪市天王寺区本町の「なにわ会館」で開催した。

主な出席者は、大阪市、京都市、神戸市の各教育委員会からの委員、並びに三市各中学校長会の委員のほか、全修協、日修協、業界代表（四社）であり、全修協からは、曽田大阪事務所長が出席した。

会議では、主要コースについて、五十七年度修学旅行を反省し、五十八年度修学旅行費の答申を作成した。答申によれば五十八年度修学旅行費は次のとおり、平均4～5%のアップとなった。

①関東＝富士・箱根方面二万八千八百円②関東＝富士・軽井沢方面三万二千八百三十三円③信州＝白樺湖・小諸方面二万八千四百四円④信州＝富士・白樺湖方面三万二百七十二円⑤中国＝広島・秋吉台・萩方面三万七百十七円～三万九百三十三円⑥九州＝新コース阿蘇・秋吉台方面三万三千三百六十四円～三万三千六百三十四円⑦阿蘇・別府方面三万二千二百七十円～三万二千五百四十円。

風紋

自動車優先の今日、生活の場としての道を考えてみる必要があろう▼「道」の語源は「ミ」は美、「チ」は方向を示す。また「未知」を意味し、人は未知を求めて自ら道をなしたともいう。日本列島は中央に背骨の高地が連なり、人は生活の糧を求めて塩の道など内陸部へと道は南北を辿った。後権力者の統治のため道は東西にはしり、その交差点に市（中継地）が出来た。物資の交換で市場となりその周辺に町（待ち合う）、後に街道となった▼道の概念は拡大され、歩くだけのものでなく客人（マレビト）を招く通路、神隠しで連れ去られた道、悪霊の入りこむ道と信仰的意識が加わり道祖神が生まれた。道はまた軍記物、謡曲等にみられる旅の行程、移り変る光景と旅情を含めた「道行文」の文体も生んだ▼シルクロード（絹の道）はヒスイを運ぶ道、幻の都楼蘭を通り中国と西域をつないだ。張騫、法顕、玄奘、マルコポーロをも招き寄せた。また西行、芭蕉をはじめ近江富山の商人、社寺詣などの情熱が庶民の道を求めた▼道は広場としても利用されていた。宿場や市場のある所では道幅が広くとられ、盆踊り、祇園会は道本来の姿である。昭和三十年頃まで道路は子どもの遊び場で、親の眼の届くところで子ども同士、親子の交情がなされた。別の広場では眼が届かない。道をはさんでの人間関係をさらに考える必要があろう。ヘルマン・シュライバーは「道の文化史」の中で「道は人間と同じく古くて新しい……今日こそ道の有する古い意義を知る必要がある」と。（S）

信頼される旅づくり

こんな笑顔、残してあげたい。
修学旅行

近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全16篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

⊙ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ			ツーリスト映画シリーズ（国内）			ツーリスト映画シリーズ（海外）		
題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞
北海道・道東	20分		北海道	29分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
東北	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
日光	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
東京	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
富士箱根	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
信州	20分	文部省選定	大和の道	25分	文部省選定・文部大臣賞			
京都	20分	文部省選定						
奈良	20分	文部省選定	南紀	28分				
伊勢志摩	22分		瀬戸内海	31分	文部省選定			
山陽山陰	23分	文部省選定	沖縄心わうつ（食器の文化）	31分	文部省選定			
九州やまなみ	20分	文部省選定		41分				
九州西海	20分	文部省選定						
南九州	20分	文部省選定						
光あふれる沖縄	21分							
スキースクール	22分	文部省選定						

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

58年研修旅行募集へ始動
研修内容をさらに充実

全修協の来年度教職員研修旅行の企画は、現在各地区毎に支部・協力団体の代表者が出席し企画、募集について慎重かつ活発な検討が行われている。

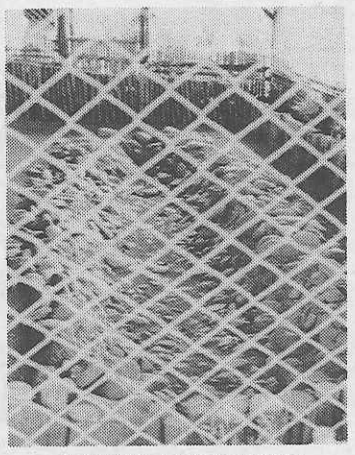
〝教職員研修の一環〟である研修旅行も来年二十七回を迎える。一般旅行とは一線を画す企画内容、とくに研修内容の充実によって教職員資質向上の一助として、教育界の要請に応え、教育諸団体の支援も活発となっている。とくに来年度企画では、さらに研修内容の充実を図るとともに中・短距離の新規コースを開発し研修旅行の拡大を図っている。

春の全国一斉募集は一月初旬より開始されるが一部、コースを紹介する。

特別研修

古代のロマンをさぐる
鉄剣の稲荷山と上毛の古墳史跡

▼コース＝①東京＝浦和・埼玉県教育会館（映画「鉄剣は語る」、講演）＝関越高速＝長瀞（泊）②長瀞＝行田・さきたま風土記の丘（稲荷山古墳、さきたま資料館、「辛亥銘鉄剣」実物の特別参観ほか）＝太田・天神山古墳＝岩宿遺跡＝前橋＝伊香保温泉（泊）③伊香保＝高崎・県立歴史博物館、観音山古墳＝高崎観音＝関越高速＝東京。


鉄剣が発見された稲荷山古墳の磔磆（広報部うつす）

▼さきたま古墳群　昭和四十四年十月「さきたま風土記の丘」として誕生。日本三大古墳群のひとつ北九州、大和古墳群と共に明治時代より注目されていた日本一大きな円墳・丸墓山をはじめ、全国でも珍らしい方形二重堀のある前方後円墳など大小9基の古墳群がほぼ完全な形で保存されている。

四年前、埼玉県行田市の稲荷山古墳出土の鉄剣から発見された金象嵌の百十五文字。謎の五、六世紀に一条の光を注ぎ込んだ鉄剣文字は古代史解明上百年に一度といわれる日本最古の金石文である。

当コースでは、短期間のフィールドワーク的なコースとして埼玉県支部（岡田憲一郎支部長）との共同企画を行い、埼玉県教育公務員弘済会（岡田憲一郎理事長）作製の貴重な映像記録「鉄剣は語る」の映写、「辛亥銘鉄剣」実物の特別参観（さきたま資料館保存）、前埼玉県立博物館館長・江袋文男氏を講師に招き、講演、現地解説の研修プログラムを予定している。

特別研修

徳川家康の史跡を訪ねて
三河・駿河・遠江

▼コース＝①東京―ひかり―名古屋＝熱田神宮＝大高城跡＝桶狭間古戦場＝岡崎・岡崎城、大樹寺、六所神社ほか＝西浦温泉（泊）②西浦＝三河湾スカイライン＝長篠古戦場＝鳳来寺山、東照宮＝奥山・方伝寺＝竜潭寺＝本興寺＝館山寺温泉（泊）③館山寺＝浜松城＝袋井・花の寺（可睡斎）＝静岡・臨済寺＝日本平＝久能山・東照宮＝日本平＝静岡―こだま＝東京。

黒潮おどる

陽春の房総半島

▼コース＝①東京―特急―浜金谷＝鋸山（ロープウェイによる東京湾展望）＝安房白浜（泊）②安房白浜＝小湊・誕生寺＝九十九里浜＝犬吠崎＝鹿島神宮＝潮来（泊）③潮来（十二橋めぐり）＝筑波研究学園都市＝土浦―急行―上野。

国の各種試験研究機関、大学など45の各種施設が集中的に配置され、総合的かつ組織的な研究学園団地を形成し、世界でも数少ない高水準の研究や教育活動の拠点として注目をあつめ、昭和六十年の科学万博「つくば85」の会場として諸施設の建設が始まっている筑波研究学園都市の現状と施設を研修する。

科学万博メモ

▼正式名称　国際科学技術博覧会（一般表記　科学万博―つくば85）

▼開催期間　昭和60年3月17日―9月16日

陽春の山陽路
安芸・宮島と倉敷・吉備路を訪ねて

▼コース＝①東京―名古屋―新大阪―広島＝広島・原爆ドーム、平和公園、平和資料館＝宮島口―宮島（泊）②宮島：厳島神社…宮島―広島＝安芸の小京都・竹原＝尾道・千光寺公園＝倉敷（泊）③倉敷＝備中・高梁（松連寺、頼久寺庭園ほか）＝吉備路・宝福寺＝吉備路・風土記の丘、備中国分寺、こうもり塚ほか＝倉敷（泊）④倉敷・プリータイム…倉敷―岡山―新大阪―名古屋―東京。

大和、九州とともに古い歴史と高度な文化をもった吉備の国。異った文化との交流の中から生れた独特の吉備文化の歴史を〝吉備路・風土記の丘〟史跡を通して研修する。

大和路の春
花の名刹と山の辺の道を往く

▼コース＝①東京―ひかり―京都―近鉄特急―奈良＝浄瑠璃寺＝般若寺＝白毫寺＝奈良（泊）②奈良＝山の辺の道（大神神宮、玄賓庵、景行天皇陵、崇神天皇陵）＝長岳寺又は慈光院＝薬師寺＝奈良公園＝奈良（泊）②奈良＝興福院＝不退寺＝海竜王寺＝奈良―近鉄特急―京都―ひかり―東京。

三輪から奈良へと通じる上古の道・山の辺の道。現在この道をはっきりと跡づけることはできないが、歌垣で有名な海柘榴市から三輪、景行、崇神陵を経て、石上から北上する道と考えられている。大和を舞台に古代国家成立の時代、天皇から庶民まで多くの歌が詠まれた〝万葉集〟。万葉人の息づかいを伝える古道を歩き、万葉集の風土、万葉歌碑を通し古代の姿をさぐる。

◇緑のしずく

「朝の静かな国」の印象〈2〉
――全修協「韓国歴史の旅」――

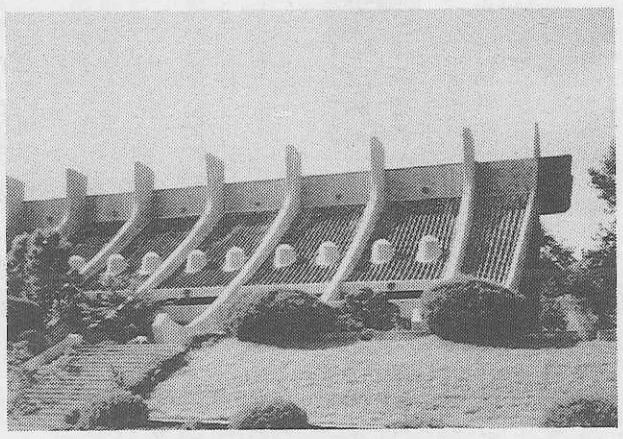
財団法人　大阪国際児童文学館
総務課長
瀬川尚志

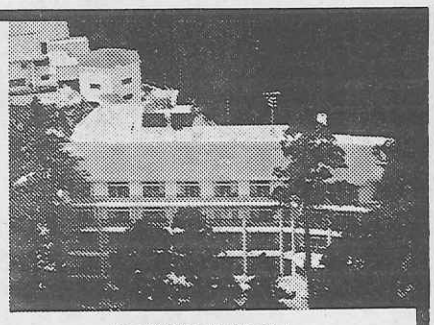
ソウルを南へ、ほとりに高層アパートがびっしりならんでる漢江の大橋をこえて約六十キロ、バスで二時間ほどのところに利川という街があります。ここは、やきものの郷で日本でも有名な柳海剛氏や池順鐸氏などの窯があって主に青磁をやいています。私たちは池先生の窯を訪ねましたが先生は東京にいらしていて不在でした。高麗青磁や李朝白磁の逸品はソウルの国立中央博物館でたのしむことができましたが、ここでも雲鶴の模様などを白い土で象嵌して、美しい澄んだ青磁をつくっています。ここの工人の説明によるとこの技術は大変にむずかしいのだそうですが、このことに明るくない私にはよくわかりませんでした。それでも一日後に訪れた慶州にあるしらぎ焼の窯元でみたものが、簡明卒直で素朴な感じがするのにくらべると、これには人工的なあでやかさがあると思いました。

さて、この利川へは高速道路をおりてからは府県道ぐらいの広さの道を走るのですが、きれいに舗装されており両側には柳やプラタナスのほか亭々とそびえるポプラがうえられて遠くまで緑のトンネルをつくっています。真夏の空は青く澄み、深みどりの並木がどこまでも続きます。左右の田圃も山々もすべて緑です。バスのなかまでも緑が入りこんで、人も車も緑のしずくに濡れたようになって走りつづけました。

この道は、利川を経て公州までつづいているのですが、この国の山はかって禿山ばかりでした。そのことを知っている戦中派氏は、このみどりには本当にびっくりした様子でした。ソウルの北方の北岳のスカイラインもそこからみえる南山も、また釜山のあたりも今はすべて緑におおわれていて地肌の見える山は見当りません。これは、ここ十数年来の全国的な緑化推進のたまものだそうですが、日ごろ、都会の無機質の道になれているものには素晴らしい道中でありました。

（つづく）

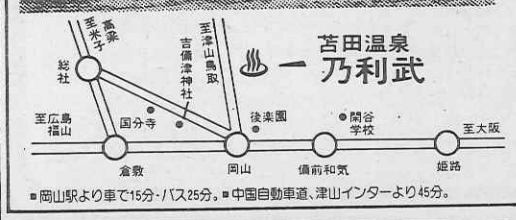

扶余国立博物館（筆者うつす）

修学旅行のお宿に
全館を開放
■延暦寺会館本館
■別館比叡
■延暦寺会館第1別館　〈収容600名様〉
■延暦寺会館第2別館
☆素晴らしい琵琶湖の夜景
☆根本中堂で早朝の座禅
☆スッキリした気分で次のコースへ
☆頭のよくなる精進料理
☆夜間は講話や映画上映を無料でご奉仕

〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917

新しい修学旅行の幕あけ！
洋上体験学習

貸切専用外航純客船　国内、海外へ
クルーザー　さんふらわあで航く修学旅行
●阪神－別府直行大型フェリー（毎日1便）●阪神－別府航路（毎日2便）
★貸切船こはく丸（3,000㌧）もご利用ください。
お問合せは
関西汽船
●営業部営業課：大阪市北区梅田1－1　☎(06)344－7031
●東京支社：東京都中央区八重州1-4-14　☎(03)274－4273
及び各支店、営業所、旅行代理店へ

山陽路　岡山のお宿

10,000坪の庭園を擁し、おもちつき、また、ファイアーストームを囲んでのフォークダンスなど、楽しいリクリエーションタイムをご用意して、皆様方をお待ち申し上げております。（500名可能）
昼食休憩・ガーデンパーティーもご予約を承わります。
政府登録国際観光旅館
苫田温泉　乃利武
〒701－11　岡山市桂谷1453
☎086294－2321　TELEX. 5922－621


■岡山駅より車で15分・バス25分。■中国自動車道、津山インターより45分。

蒜科
高原の四季・静かな憩い
蒜科高原、白樺湖へ登り、さらに女神湖へ出て「女神湖ホテル」に泊った。
シーズンオフの高原のホテルというのはいいものだ。歩いて一周三十分の女神湖。
『白樺が群生していて湖があって、しかも名前が女神湖でどうですか。教会を建てなさい。そこで結婚式をやるんです』
☆
「女神湖ホテル」から霧ヶ峰をぬけて旧中仙道で山を下りた。木曽もいいが、山を下って追分までの中仙道の宿場の風情はわざとらしさが無くて、しかも世の中のうつりかわりを感じさせるところが好きだ。
永六輔〈終りのない旅〉より
女神湖のほとり、山の湖のロマンをそのままに漂わせるようにたたずむ明るく清潔なホテル。
女神湖ホテル
〒384－23　長野県北佐久郡立科町芦田
電話　02675－5－6006
案内所　東京：千代田区内幸町2－2－2富国生命ビル　電話03－591－8844
大阪：北区小松原町2－4フコク生命　電話06－312－8988